



めざせ！やさしさ日本代表！
かわさきパラムーブメント

昨年度の主な取組について①

資料 1

1 商店舗等におけるかわさきパラムーブメント実践事業

概要目的:市内の商店舗等が、「かわさきパラムーブメント」のロゴステッカーを店頭で掲出することでハード面又はソフト面のバリアフリー接遇が可能な旨を発信し、

- ・サポートを必要とする障害者等の利用者への利便性向上を図ること
- ・「かわさきパラムーブメント」の認知度を上げ一層のムーブメントを起こしていくこと
- ・市内の商店舗及び利用者の方それぞれが「めざせ！やさしさ日本代表！」を担う一員であることを理解すること

の3点を通じて障害のある人などが生き生きと暮らせるまちづくりを目指す。
⇒かわさきパラムーブメントの目指す3つのレガシー形成へ

- レガシー②心理的バリアが解消されたまち～心のバリアフリー～
- レガシー③社会的バリアが解消されたまち～ユニバーサルなまち～
- レガシー⑧来訪者が「行って良かった」と思えるまち

実施内容:12月11日から「かわさきパラムーブメント実践店」を募集し、4月10日現在567店舗を登録している。
登録店舗のうち、42店舗（一般小売20店舗、飲食22店舗）については、成田委員長にもご協力いただきバリアフリー調査をNPO法人アクセシブル・ラボが実施した。
登録店舗については、バリアフリー情報も含め、川崎市のホームページで発信しているほか、本市と共同で飲食店のバリアフリー調査を実施したぐるなびも、ホームページで調査内容を発信している。



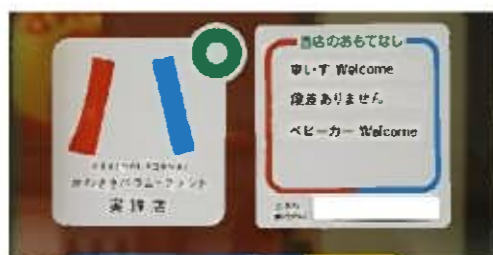
本市HP



ぐるなびHP

店舗内訳:市内のセブンイレブンのほぼ全店、市内のファミリーマートのほぼ全店
市内の横浜銀行全店舗、市内の川崎信用金庫全店舗
市内のJAセレス全店舗、セレスパーシモン、セレスモス
市内66店舗（一般小売22店舗、飲食41店舗、サービス3店舗）

今後の展開:さらに掲出店舗を増やすために、商店街やチェーン店等へのアプローチを継続する。



ステッカー



バリアフリー調査の様子

2 「ワクワクのつくりかた ～オープンエアメーカーになろう！～」の絵本

概要目的:「共生社会」の担い手となる子どもたちの心を育むため、物語を通じて、みんなが笑顔になる、ワクワクするようなヒントを、わかりやすく示し、スポーツを通じた障害理解の促進を目指す。
スポーツ庁の「障害者スポーツ推進プロジェクト」を活用し、その取組のひとつとして、絵本（別紙1）を作成した。
⇒かわさきパラムーブメントの目指す3つのレガシー形成へ

- レガシー①多様性を尊重する社会をつくる子どもを育むまち
- レガシー②心理的バリアが解消されたまち～心のバリアフリー～
- レガシー④誰もがスポーツ・運動に親しんでいるまち

活用方法:現在作成した絵本は、今後公立小学校の図書館へ配布する。また、増版を予定しており、市内公立小中高校及び特別支援校へ順次配布する。さらに、今年の夏に開催予定の教員向け研修会などを通じて、さらなる取組の周知を図る。
2018年は白幡台小学校で絵本を活用したワークショップ型の授業を実施しており、今後も、授業での活用等も見据えながら、市内小学校と連携していく。



白幡台小学校での授業の様子

3 パラムーブメントアクション（かつてにおもてなし大作戦）

概要目的:市民活動や地域活動へ受動的に参加する人や潜在意欲がある人などを対象に、かわさきパラムーブメントや英国おもてなしに関する自身の「やりたいこと」をマイプロジェクトとして実践することを通じて、かわさきパラムーブメントの理念浸透を図る。

⇒かわさきパラムーブメントの目指すすべてのレガシー形成へ
その中でも特に3つのレガシー形成へ

- レガシー②心理的バリアが解消されたまち～心のバリアフリー～
- レガシー⑥多様な主体が地域づくりに貢献しているまち
- レガシー⑧来訪者が「行って良かった」と思えるまち

実施内容:市内4地域において、市民講座を実施し、2月24日及び3月3日に全部で47のマイプロジェクトが実践された。

※内容については、別紙2を参照

3月8日に実践されたマイプロジェクトの報告会・交流会をミューザ川崎で開催し、参加者同士の情報共有を図り、次年度につなげるため、今年度の振り返りを実施した。



当日の様子



実施報告の様子

今後の展望:今回参加した市民の方を中心として、さらに地域で主体的に活動する人を増やすとともに、企業や既存の活動との連携の拡大を図る。



めざせ！やさしき日本代表！

かわさきパラムーブメント

昨年度の主な取組について②

4 ブリティッシュ・カウンシルとの連携事業

【ドレイクミュージック】

概要目的:あらゆる人が音楽に親しみ、創造性を発揮できる社会の実現を目指し、英国のアート団体「ドレイク・ミュージック」から講師を招へいし、ファシリテーター育成トレーニングや、音楽づくりのワークショップ、ミートアップセッション（アクセシブルな楽器開発）などを開催した。



開催内容:市内で活動する音楽家など19名が参加し、障害の社会モデルを理解し、障害のある人も参加する音楽ワークショップのファシリテーションスキルや、テクノロジーを取り入れた音楽プログラムのあり方などを実践を通じて学んだ。
(3月5・7・8日の3日間で実施)

さらに、テクノロジー関係者と障害のある音楽家計23名が出席し、相乗効果をはかるために互いの経験やスキルを共有し、障害のある人の音楽参加の機会拡大や障害のある音楽家をサポートするテクノロジーの可能性について考えるワークショップを実施した。
(3月9日に実施)



ドレイクミュージックによる
ワークショップ

【ストップギャップ・ダンスカンパニー】

概要目的:誰もが自己の可能性に気付き、広げていくきっかけとするために、英国のダンスカンパニー「ストップギャップ・ダンスカンパニー」による、主に障害のある方（主に若い年代の方）を対象としたワークショップを開催した。



開催内容:10代、20代を中心とした障害のある方26名が参加し、障害の有無や年齢等に関わらず、身体の動きを通して交流する表現活動についてのワークショップを実施した。
(3月9日に実施)

⇒かわさきパラムーブメントの目指す3つのレガシー形成へ
レガシー②心理的バリアが解消されたまち～心のバリアフリー～
レガシー⑤誰もが文化芸術に親しんでいるまち
レガシー⑦誰もが職業等を通じて社会参加できる環境

今後の展開:2020年の公演開催を視野に入れ、昨年度のトレーニング参加者との連携によるワークショップやフォーラム等を実施する。
さらに、ワークショップ等を開催することで、新たな参加者を増やし取組を広げていく。



ストップギャップ・ダンスカンパニー
によるワークショップ

5 「Colors かわさき展」の開催

概要目的:アートを通じて、障害のあるなしに関わらず、作品の魅力を感じ、かわさきパラムーブメントの目指す社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の実現に向けて開催した。

⇒かわさきパラムーブメントの目指す2つのレガシー形成へ

レガシー②心理的バリアが解消されたまち～心のバリアフリー～
レガシー⑤誰もが文化芸術に親しんでいるまち

開催内容:約40人のアーティストや市立特別支援学校の子どもの作品を展示し、作品（一部を除く）については、期間終了後、入札で購入でき、24作品が実際に販売された。また、開催期間中を「Colors art fair」として、アーティストとの交流会をはじめ、シンポジウム、切り絵、ライブペイント、ダンスのワークショップ、コンサート、講座などを開催した。
(11月16日～25日に開催)
※アンケート結果について別紙3参照



会場の様子

6 共生社会ホストタウン連絡協議会

概要目的:内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局及び共生社会ホストタウン（※）に登録された本市を含む全14自治体により、新たに「共生社会ホストタウン連絡協議会」を設立された。
それに伴い、2月16日に山口県宇部市において、14自治体によるサミットが開催され、設立宣言がされた。
トークセッションでは、福田市長が登壇し本市の取組を紹介した。

参加自治体:三沢市（青森）、遠野市（岩手）、世田谷区（東京）、浜松市（静岡）
神戸市（兵庫）、明石市（兵庫）、高松市（香川）
鳥取県・鳥取市（2自治体合同で登録）、宇部市（山口）、田川市（福岡）
飯塚市（福岡）、大分市（大分）

今後の展開:今年度以降もサミットを継続的に開催し、情報の共有を図るとともに、連絡協議会による情報発信を行っていく。

※共生社会ホストタウンとは…ホストタウンに登録している自治体（2月28日現在228自治体）のうちパラリンピアンとの交流をきっかけに、共生社会の実現に向けて、「心のバリアフリー」と「ユニバーサルデザインの街づくり」を先進的に進める自治体



サミットの様子

